

Q：教会ではよく「聖書の御言葉に聞く」と言われますが、なぜ読むと言わないのですか。

A：まず、聖書の御言葉は、そもそも神様から直接与えられたもので、文字を通して与えられたものではありません。獣皮やパピルスに記されたのはさらに長い年月を要しました。したがって文字から与えられたのではなく、主に口頭での伝達が宣教の手段だったのです。聖書が印刷され、広く一般に行き渡ったのは長い歴史の中ではほんの最近とも言えます。異邦人伝道者、パウロはローマの信徒への手紙 10 章 17 節において次のように言っています。

「そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。」

更に重要なことは、聖書は深く読む、とくに声を出して読むと、心にひびきやすいです。そこで、誤解を恐れずに申し上げますと、聖書を読むことが表面的な理解で終わる場合があります。礼拝で心静かに、全身全霊でメッセージが伝えられるのを聴くと、理解が深まり、さらに時の経過とともにその言葉が心の底にまで届き、定着し、さらにそこから信仰の力が聖霊により養われ成長してゆくのだと思います。

よって御言葉は「読む」だけでなく、口に出して、その「御言葉を聞く」ということに力点を置いていただければいかがでしょうか。また、オーディオ聖書もありますので、これを活用するのもよろしいかと存じます。